授業科目			対象学科・専攻		年 次	期別	
障害児保育 Care and Education for Disable Children			児童教育学科 幼児教育学専攻		1 年次 2 年次	1年次後期 2年次前期	
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業	巻認定	担 当 教 員			
演習	2	į	選択	中津 愛子			

概要

障害のある子どもの保育の基本と、障害特性、一人一人の子どもに対する理解、保育における発達 援助の方法を学ぶ。

到達目標

- (1) 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について説明できる。
- (2) 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について具体的に述べることができる。
- (3) 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について説明できる。
- (4) 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について 考えを述べることができる。
- (5) 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について具体的に述べることができる。

授業内容とすすめ方

【1年次後期】

- 1 障害の概念と障害児保育の歴史
- 2 障害のある子どもに対する保育の基本
- 3 知的障害①-障害特性の理解-
- 4 知的障害②-発達援助-
- 5 自閉症①-障害特性の理解-
- 6 自閉症②-発達援助-
- 7 注意欠陥多動性障害①-障害特性の理解
- 8 注意欠陥多動性障害②-発達援助-
- 9 学習障害①-障害特性の理解-
- 10 学習障害②-発達援助-
- 11 肢体不自由①-障害特性の理解-
- 12 肢体不自由②-発達援助-
- 13 聴覚障害①-障害特性の理解-
- 14 聴覚障害②-発達援助-
- 15 視覚障害-障害特性・発達援助-

【2年次前期】

- 1 早期発見と早期療育
- 2 保育課程に基づく指導計画・環境構成
- 3 知的障害の子どもに対する保育の実際
- 4 自閉症の子どもに対する保育の実際
- 5 注意欠陥多動性障害の子どもに対する保 育の実際
- 6 学習障害の子どもに対する保育の実際
- 7 肢体不自由の子どもに対する保育の実際
- 8 聴覚障害の子どもに対する保育の実際
- 9 視覚障害の子どもに対する保育の実際
- 10 重複障害の子どもに対する保育の実際
- 11 保育記録と評価の実際
- 12 障害のある子どもの家族に対する支援
- 13 発達支援の制度
- 14 小学校・特別支援学校との連携
- 15 医療・福祉の専門機関との連携

テキストおよび 参 考 文 献 参考文献:水田和江・ 増田貴人 編著「新障害のある子どもの保育実践」学文 社、授業時にプリント配布

メッセージ な ど

教材作成、援助の実際などに必要な物品を事前にお知らせします。

ど 保育士証:必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価										
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率				
(1) 障害児保育を支え る理念や歴史的変 遷について学び、障 害児及びその保育 について説明でき る。	ほぼ完璧に 説 明 で き る。	大きな間違 いがなく、 基本を説明 できる。	間違いはい くつかある が、最低限 の基本を説 明できる。	説明できて いない。	定期試験 (知識・理 解)	20%				
(2) 個々の特性や心身 の発達等に応じた 援助や配慮につい て具体的に述べる ことができる。	たいへん具 体的に述べ ることがで きる。	おおよその 内容につい て具体的に 述べること ができる。	部分的には 具体的に述 べることが できる。	具体的に述 べることが できない。	課題 レポート (関心・意 欲・思考力・ 判断力・表現 力)	20%				
(3) 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について説明できる。	ほぼ完璧に 説 明 で き る。	大きな間違 いがなく、 基本を説明 できる。	間違いはい くつかある が、最低限 の基本を説 明できる。	説明できて いない。	定期試験 (知識・理 解)	20%				
(4) 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について考えを述べることができる。	子庭やと協て識完のべてと、関の側正し壁考でいる。というでは自をある。	子庭やと協て誤な問く考てどへ関の働のり論題、えいの支機携つ識大的も分述。家援関・いにきななのべ	子庭やと協て間くり脱がのえいどへ関の働の違つ、字、自をるの乗連に認いか誤も最分述。家援関・いのいあ・る限考て	自分の考え を述べてい ない。	課題 レポー (関・思考力・ 利断力・表現 力)	20%				
(5) 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について具体的に述べることができる。	たいへん具 体的に述べ ることがで きる。	おおよその 内容につい て具体的に 述べること ができる。	部分的には 具体的に述 べることが できる。	具体的に述 べることが できない。	課題 レポート (関心・意 欲・思考力・ 判断力・表現 力)	20%				